なかさと

毎月一回 15日
定価 1部 5円
発行所
中里村公民館

現在人口

男	4,245
女	4,404
計	8,649
世帯数	1,681

青少年の活動をもりたてよう

農村の青年団やグループ、サークル、青年学級などが振るわなくなってきた理由はいろ〳〵あげられているが、それは青年たちの生活の変化であり、変ぼうする社会の背景があることはいうまでもない。

中里村においても、数年の間に青少年人口は目に見えて減少し、在村青年の中には、十日町機織地などへの通勤者が増え、いわゆる下宿型の青少年が多くなってきた。農業青年たちはそのほとんどが出稼ぎするようになり、それが農家の経営収支に大きな意味をもってきているのである。青年たちは、ひとりひとり生活をみつめないわけではなく、安定感のある豊かな生活をという気持ちは、むしろ真剣であるが、個々の環境や条件はさまゝで、ねがいやなやみは青年たちの共通の問題となって出てこない。

このような状況の中で、青年団体活動は低調になってきて、中里村連合青年会は、その末端組織である部落青年会が解散してしまったところもあり、会員数はわずかに百名余りという現状である。青年学級にしても、村内全域から学級生を募り、現在三十名前後で開設しているが農業青年はきわめて少ない。

このように、集団に加わっている青少年は少なくなっているが、しかし、なんの団体にもグループにも入っていない、いわゆる未組織の青少年がいないわけではない。なんといっても、村の将来は若い人たちによって受けつがれ、地域開発や近代化の課題は青年たちの努力と活躍にかかっているのである。青少年の強んな意気と、活発な活動を期待するものである。それには先ず青年団体の組織をしっかりとたてなおすことだ。必ずしも地域選挙的性格を排撃する必要はない。問題は、自分たちの生活を高めようという意欲と、自己のカラに閉じこもってしまうのではなく、ねがいやなやみを出しあって、みんなで解決し実現していこうとする態度を培うことである。そして青年たちに建設的な活動をのぞむとともに、これを育て盛りたてる、村ぐるみの深い理解と協力もお願いしたい。

公民館では、青少年教育を中核として活動を推進することにしている。農業改良普及所でも青少年の農業教育に力をいれている。もちろん、関係指導機関とも密接な連携をとり、一体となって、村の青少年活動を盛りたてていきたいものである。

子供を水の事故から守りましょう

中里村では、ここ数年来、子供の水の事故は起っておりませんが、新潟県下においては、百五十五名の水死事故のうち、五才迄の事故数が、七十七名の多くに及び、そのほとんどが、四月五月の農繁期に集中されていることから、いつどんなところでこのような幼児の事故が起らないとも限りません。個々が充分気をつけると同時に個人で出来ないことは、区長さん、婦人会、その他諸団体等力を合わせ、今年も中里村から水の事故を、起さないよう万全を期して頂くようお願い申し上げます。

一、用水、溜や池には、金網、柵を設置しましょう。
二、家庭内の浴槽、洗たく機、水がめなどに、蓋によたをしておきましょう。
三、幼児を一人にしないようにしましょう。
四、幼児同志だけで、遊ばせないようにしましょう。
五、仕事のかたわら子守りを、かねる場合には、特に保護に充分注意しましょう。

——6月6日——
県民スポーツの日
郡市駅伝、卓球、排球大会

県では増強をはかり、県民生活を明朗にしようというもので、第一回スポーツの日は、昨年国体開会式が行なわれた六月六日となりましたが、毎年六月第一日曜日を県民スポーツの日にすることになったわけです。

中魚沼郡十日町市ブロックでは、四ヵ市町村駅伝大会、卓球大会、バレーボール大会が行なわれます。すでに実施要項も各ブロックで、新潟県及び新潟県教育委員会の主催により各種体育行事を開催することになりました。

これは、昨年の新潟国体総合優勝を永久に記念し、これを契機に広く県民の間にスポーツを振興して、県民の体位と体力の増強をはかり、県民生活を明朗にしようというもので、第一回スポーツの日は、昨年国体開会式が行なわれた六月六日となりましたが、毎年六月第一日曜日を県民スポーツの日にすることになったわけです。

中魚沼郡十日町市ブロックでは、四ヵ市町村駅伝大会、卓球大会、バレーボール大会が行なわれます。すでに実施要項も各ブロックで、駅伝は、隼南町一中里村一十日町市—川西町と郡市内を一巡して十日町市役所前ゴール。選手は十才台から五十才台まで各年令層から参加します。卓球大会は川西町川西中学校体育館で開かれ、やはり十才台から四十才台までの各年代から選手が出ることになっています。バレーボール大会は十日町市体育館で開かれ、これもチームの中に三十才以上の選手を二名入れることになっており、各種目とも過去五年間に県大会などに出場したことのあるベテラン選手からは遠慮してもらうなど、記録や勝敗にとらわれずだれでも参加できる郡市民の親睦親和をはかる大会にしようというものです。

中里村でも先き頃公民館体育協会など関係者により実行委員会が開かれ、この行事に参加することを決め準備をすすめていますが、選手だけでも八十名の人数となり、しかも農繁期なので選手編成に困難を予想しています。村民からも趣旨を理解していただき、ご協力と中里村チームにご声援をお願いします。

なお、駅伝は午前十一時、卓球、バレーボール大会は十時それぞれ開会されます。

明るい家庭をつくりましょう

健全な青少年を育成するためには、先ず、人間生活の基本的な場である家庭が健全でなければならないことはいうまでもないが、最近の大人は仕事に、レジャーに追い回され、子供と話し合い、親子そろって楽しむ機会をつくることを忘れていないだろうか。何時の時代になっても、家庭は人がらをつくる最も基本的な、重要な場であることに変りありません。常になごやかな雰囲気の両親や兄姉のもとにこそ、健全な青少年がはぐくまれて行きます。

明るい家庭をつくるために、次のことを実行しましょう。

①笑顔で挨拶しましょう。
②家族みんなで話しあいましょう。
③親子そろって楽しむ機会をつくろう。
④みんなが進んで手伝いをしよう。

「五の日」は税の相談日

毎月三回実施

五の日の「税の相談日」が全国の税務署に設けられてから、この五月で満二年になる。この税の相談日は、納税者の疑問や問題点の解決を図り、税法上認められる有利な事項を積極的に知らせるために設けられたものである。十日町税務署に於いては、これからも気軽に相談において下さいと納税者に呼びかけているが、相談日は毎月三回五日、十五日、二十五日、(但し当日が休祭日にあたる時は、その翌日)と、なっている。誰でもいくらかは、税金について疑問や、苦情をもっていると思われるが、知らないで損をすることのないように、納税者の積極的な利用を望んでいる。

自己のコントロール

斉藤大馨

今春の季候ほど不順なことは近年稀なことである。それでも断やくわが里も、風薫る青葉、若葉、万物躍動の時季に入った。五月ともなれば、身も心もウキウキとしてくる。又色々の行事が各地で行われ、何々週間と連続ヒットの月である。

今月十一日より交通安全週間がはじまった。あらゆる乗物が大都会なみに歴となく、夜となく突っ走っていると、田舎とてのんびりと自然をめでつつオチオチ歩かれないようだ。此の頃交通事故は都会といわず、山間辺地おしなべて続出して居る。あらゆる機関を通して真剣にその対策に乗り出して居るようだがその件数は上昇の一途をたどっている。此の辺でお互い個々に少し反省して見なければならない気がする。事故は物理的衝突のみで起ることもあるが、大部分はやはり心のコントロールの利かなかった場合が多い。心は人間の主である。支配者そのものである。だから心を極力尊重しなくてはならない。

心ほど貴いものはないといわれるが、一面心ほど危いものもない。心には善悪両様の相反的な性格があるからだ。心の悪い方面を見たら、サルトルがいうように「悪識は無性を帯びている」ということである。つまり人間性を否定するようになる。意識の悪いはたらきで、人は他の動物に見られぬような怖ろしい計画も、盗みも殺傷も戦争もする。

心は人間の行動を決定する有力な力をもっているだけに、それをよく支配し統制し活動させたら、これほど善なるものもない。要は心のコントロールいかんにある。心はいつも無上のものだ、というのは偏見である。有力な意識をどうコントロールするかで、人生一切の問題の別れ目になる。その自己制御、自己支配の力は、いうまでもなく理性のはたらきである。仏教的にいうならば、如来の智慧である。心のコントロールは、人間心の中にある理性の力、智慧と英智のはたらきにほかならない。

自動車でも通行人でも、自己運転をどちらもよくやってゆけば、まず事故を起こさずにおおむね安全だといえる。酔っぱらい運転、追い越し運転、スピード違反など、すべて自己制御の喪失である。

人生は一枚の紙も書きくすしを許さないほど厳酷なものだ。それを感覚や酒や麻薬や誘惑で制御力を喪うなら、人間は動物本能を丸出しにして、どんなことを仕出かさないとも限らない。だから罪悪深重の凡夫などと規定される。

大局的には、人間は、もうそろそろ智慧的に進化している。だが、それが歴史の進歩である。たかうとも智慧的に進化しているらずすべての人間が理想通りにもならないと、いうのはあまりにも人間不信であり、極度の悲観主義にほかならない。理想的な智慧をもった人間も世の中には、じつに多い、という見方も成り立つ。

けれども宗教的な受けとり方からすれば、どれだけ世の中が進歩しても、人間の根本無明煩悩にはかわりはない。智因智果三世にわたる相続不断のものである。だから百歩ゆずって、この世で悪業をつくらなくとも、過去世においてどんな罪業をおかしているかもしれない。

さらにこの世に生まれてきてから知らず知らずにつくった罪も無量である。いうところの理想の智慧も「われ昔よりつくるところの無始よりの貪(とん)瞋(しん)痴(ち)によって身口意より生ずるところなり、一切われいまザンゲす」と先人に五体を投地した回心そのものでなかったら絵そらごとになる。

ここに人間の理性とか真智を超えた、如来の智慧と慈悲とがある。自己のコントロールも、ここに根をおろしたい。自分を運転するのには、己れを無にした自然法爾の「法」によらなければならないことはいうまでもない。

天体の運行から一微粒子の運動に至るまで、すべて厳密な法に随従し、一糸乱れない統制を行なっている。無碍の世界にしてこれである。まして自他の生命が危険にさらされる乗物の運転である。自由とは決して無軌道な放縦でない。真理道義の超特急の自由は、レールの上を突ッ走ることだ。それが自己制御で、かけがえのない人間の尊きを考えたら、安全運転は自利利他円満の至上命令である。

交通禁力も早く此の地上から少しでも除去したいものである。

食中毒の予防

昨年新潟県で発生した食中毒は六十八件。うち患者千二百九十一人、死亡三人となっています。色や味、臭、香などでは、わからないので、それだけに、普段からの予防が大切です。

食中毒を家庭からなくすために、

①食品は清潔な店で買うこと。
②台所を清潔にして、整とんしておくこと。
③調理する人は、調理前に必ず手を洗い、化膿傷のある場合は調理しないこと。
④ねずみ、ハエ、ゴキブリなどの病生害虫の侵入を防ぐこと
⑤食器具、まな板、布きんなどはよく洗い、完全に乾燥させること。
⑥食べ物はなるべく加熱調理を行ない、そのまゝ保存するものは完全に冷却すること。
⑦熱いものと冷たいものを一緒につめあわせない。
⑧調理してから時間の経ったものは、必ず充分に火を通し、また、あやしいと思ったものは、惜まずに捨てること。
⑨行楽、旅行の際の折詰、弁当などは、家に持ち帰らず、必ず旅行中に食べてしまうこと。

なかさと文芸
——五月投句——

野に遊る夕餉のけむり梨の花　鶴陽　露丘
春耕に子等まつわらず野辺に声　正光
歌声の消えて梅林広くあり　桂仙
詩心湧きし落花の霞さらふ　えつお
くたり来て流れにすくふ花の屑　大泉
カバン置く所作にも疲れ進学子　正乃
風通う桜咲き初む試歩の堤　義旋
梅桜桃梨一度に開く越の郷　正乃
喜びの試歩許されて青き踏む　義旋
古郷に続く山々遍路　鶴陽
席題「蛙」
仕舞風呂たのしむ妻に遠蛙　鶴陽
えつお
ぬか焼きの火のくすれおり夜の　土牛
家路急ぐ蛙の声を田に残す　露丘
旅の子に文書く灯り遠蛙　大泉
栞を解きて翻読果つ遠蛙鳴く

人生往来

◎誕生

氏名	年令	住所
中島政充	政平	堀ノ内
阿部ゆり子	忠夫	堀ノ内
南雲光夫	長次	堀ノ内
関根明道	隆光	本村
麻沢紀子	勝巳	田中
樋口英樹	金吾	干溝
田村京子	恵一	荒屋
石沢均	定夫	荒屋

◎結婚

氏名	年令	住所
村山雅樹	進	本村
菅井愉美	実	如来寺
山本真紀子	覚	桂
島田昌子	勝太郎	倉俣本村
山田光弘	正八	清田山
〈新郎〉南雲	吉彦(23)男	堀ノ内
〈新婦〉南雲	初子(23)女	堀ノ内
〈新郎〉井之川正昭(23)		本屋敷
〈新婦〉綱島	久子(19)女	糸魚川
〈新郎〉井之川福一(25)		本屋敷
〈新婦〉菅井	米子(23)女	如来寺
〈新郎〉吉乗	昌平(25)男	宮中
〈新婦〉南雲	ミヨノ(23)女	堀之内
〈新郎〉鈴木	隆(25)男	鹿地
〈新婦〉中村ツヤ子(23)女		長野県
〈新郎〉小林	博英(28)男	上山
〈新婦〉保坂	和子(25)女	沢
〈新郎〉大島金一郎(28)		十日町
〈新婦〉樋口	道子(25)女	小原
〈新郎〉樋口	一男(26)男	干溝
〈新婦〉中島ミイ子(23)女		本屋敷
〈新郎〉山本	貞男(23)男	小出
〈新婦〉山本トモエ(23)女		小出
〈新郎〉大島	貞義(26)男	白羽毛
〈新婦〉樋口	道子(23)女	朴木沢
〈新郎〉屋台	進一(26)男	川西町
〈新婦〉小柳	ユキ(23)女	如来寺
陶聖	金作(26)男	堀ノ内
羽鳥	幸子(23)女	新屋敷
桐生	新平(26)男	阿寺
大平	米吉(28)男	倉俣本村
鈴木盛三郎(26)		清田山
関根	明道(28)男	宇川
内田	徳長(23)男	田沢本村
村山	トラ(25)女	田中
高野	吉永(25)女	桂
樋口	忠蔵(26)男	如来寺
広田	千代(23)女	白羽毛
		干溝

明るく、正しい選挙
話しあいの話題 (3)

4 政治的関心

◎ゆりかごから墓場まで

「ゆりかごから墓場まで」ということばがあるように、今日、私たちの生活は政治とは切っても切れないつながりをもっています。出生から死亡まで、具体的には戸籍、学校、警察、消防、水道、住宅、道路、保健衛生、福祉等々、政治は私たち国民一人一人の毎日の暮しと密接な関係をもっています。とくに、"福祉国家"ということがうたわれ、国民生活のすみずみにまで、政治の手が及んできている最近においては、私たち生活に対する政治の影響力はきわめて大きいものとなっています。

◎政治に対する要求は千差万別

このような政治と私たちの生活と密接な関係からして、今日私たちは、政治からうける利益も多い反面、私たちが政治に対して要求すること、現実の政治に対してもっている意見も少なくないはずです。私たちが政治に期待するものは物価の安定であるかも知れません。あるいは住宅難の解消であるかも知れません。こうした要求なり、意見なりは、人により千差万別でありましょう。ただ、ここで私たちにとって大切なことは、こうした要求なり、意見なりを、そのままにしないで、できるだけ政治上に反映させてゆくよう努力することです。政治は、社会にある各種の利害関係を調整し統合して、その社会が当面している問題を少しずつでも解決の方向にもってゆく機能をもっていますが、その場合、出発点となるのは、私たちの個々の要求であり、意見であるといえます。

◎うすゝぎる政治的関心

こうしてみると、私たちは、日常の生活で感じた要求なり、意見なりをもっとも政治に結びつけて考え、政治に対する関心を更に深めなければならないはずです。ところが、ふりかえってみますと、私たちの政治に対する関心というものは、案外うすいのが実情ではないでしょうか。「政治は政治家にまかせておけばよい」とか、「政治はよその世界のできごとで、自分たちには関係ない」と口にする人もみられるようですが、これでは大に向ってツバすることに似ています。

◎政治は私達のしあわせのためにある

いうまでもなく、政治の主人公は私たち自身です。政治は私たち自身のものであり、よい政治への努力は、結局、私たち自身のしあわせとなってはねかえってくるものです。つまり、私たちは、政治の受益者でなくてはならないのです。したがって、私たちは、政治について、どんな関心を持っても持ちすぎるということはないといえるでしょう。

(以下次号)

身近かに積立られている

簡易生命保険掛金

簡易生命保険金の掛金は、保険金の支払いが行なわれるまでの間、国で積立てられ、住宅の建設、水道等生活環境整備、道路鉄道等公共投資、地域開発等広く公共事業に投融資されております。昭和四十年度の運用計画では、地方債として全国市町村に融通される資金だけでも、四百二十億円に達し、開放経済への移行と合まって益々その利用価値は高まりつゝあります。中里村には今までに次のような融資がなされ、皆さんの身近かな生活に積立られながら、確実に運用されております。

さて簡易保険は昨年より、保険金の最高制限額を百万円に引き上げたり、死亡保険を厚くする特別養老保険を創設したりして皆さんのゆたかな家庭設計に一段と努力を傾けております。

ところが、最近保険金の満期による支払いが頂点に達し、満期契約に対する代替契約の必要が関係者の間でさけばれているところであります。以上のような事情を御理解の上、今後とも特段の御協力を賜りますようお願い申し上げます。(行政課)

年度	事業名	事業費	簡保融資額
28	中里診療所設置	一、二五五	三〇〇
33	貝野小屋体増改築	九、二三九	二、五〇〇
35	倉俣中屋体新築	八、三九五	二、〇〇〇
35	簡易水道（田沢、如来寺、通り山、倉俣、芋川）	一〇、八九二	四、〇一〇
36	田沢中寄宿舎新築	八、九五一	二、三〇〇
37	簡易水道（芋川、東田尻）	四、七四七	二、三〇〇
38	田沢中寄宿舎増築	五、五七〇	一、八〇〇
39	清津峡小特別教室新築	五、六三〇	二、三〇〇
	計	五四、六六九	一七、五一〇

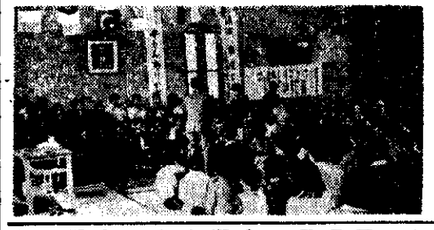
(単位千円)

「母の日」行事開かる

去る九日は五月第二日曜日で"母の日"でしたが、中里村では公民館、連合婦人会主催により児童館で母の日行事が催され日頃、忙しく働いているお母さん方も、この日は一日子どもたちの感謝作文朗読やら合唱、器楽演奏、記念講演、映画見学などにゆっくり過しました。

なお、講演は中越児童相談所長尚木英知智先生を講師にむかえ"家庭と母親"と題してお話を聴きましたが、最近、家庭の主婦が外にでて働くようになりこのような世相の中で青少年の健全育成のために、家庭のもっている重要な意味、とくに母親の役割についての反省をうながされ、集まったお母さん方に深い感銘を与えてくださいました。

【写真盛況だった母の日行事】



成人式は7月4日に

特別講座6月20日から

公民館では今年成人に達した人たちを励ますとともに、社会人としての教養をたかめ、実際生活に役立ててもらいたいと例年のように今年も成人式ならびに成人講座を開くべく計画していますが、このほど次のとおり日程をきめましたのでお知らせいたします。

なお、対象者は、昭和十九年四月二日から昭和二十年四月一日までに生まれた人で、現在中里村に居住している人です。

◇成人式
期日　七月四日午前九時より
会場　田沢小学校体育館
内容　式典、記念品贈呈、記念撮影、祝賀会

◇成人講座
期間　六月二十日～六月三十日まで四回
会場　田沢小学校家庭室
内容　青年期の特色、生活の中の法律、生活とエチケット、青年期の健康、青年のモラル、政治経済の知識、社会教育への理解、体育レクリエーション。

なお、詳細は対象者には直接お知らせいたしますが、講師等の都合により、若干の変更があります。

役場 高橋稔主事急逝

役場行政課の常機総主事は、去る十日不慮の事故に遭遇し急逝いたしました。

高橋主事は、昭和二十九年に旧田沢村役場書記となり税務保衛生係などを経て現在行政課では、財政や各種調査統計等の重要な事務を主として担当しており、役場の中堅として有能な職員であっただけに、急逝が惜まれてなりません。ご冥福をお祈りいたします。

補充選挙人名簿について

公職選挙法の改正により、補充選挙人名簿の調製方法が変りました。近く参議院議員の選挙が行なわれる予定でありますから有権者の皆さんで、補充選挙人名簿登録の必要のある方は電話でも又役場にお出になって、行政課に御相談下さい。

(中里村選挙管理委員会)

寄稿

君の霊に捧ぐ

—稔君急逝の報に接し—

村山　武

僕は今君の少年時代に描いた油絵の写生画と対座している。君の写生画は僕が君と、君の生家、それは川岸の静かな君の部屋で、夏の西日の照りつける日に、君にねだって頂いたものだ。その時君はてれくさそうに「こんなものをか」と言ってあとでいい作品をくれるような口調と表情だった。洟しがりやの僕は、洟しがりやの君の家によく通い、よく飲み、よく語り合った。春雨が糸の如くに降りしきり、川の流れが量を増して石がころがるような日に。秋—庭の柿の落葉が紅く染めちらし、また冬—豪雪で道もつかぬ真夜中に、君の家と僕の家とを通い歩いた。君と僕は、酒を傾けながら、夜を語り明したことも幾度あったろうか。文学を詩を、社会を人物を辛辣に批判した。特に君の得意とした材料は人物批評で、君の人間の心理をくまなく分析する能力と、その表現力には、いつも僕は一目置いた。君の神経の鋭さ、剃刀の如く切れる頭脳、僕はいつも圧倒された。議論が白熱化すると、僕は卑劣にも脅迫をもって迫に迫まった。正義感の強い君を怒らせてしまうことが度々あった。君は青年会に於いても、幹事の大任を立派にやってのけた。だらしのない僕はいつも君に尻ぬぐいをさせてきた。僕は君に大きな借りがある。同じ世界で同じ歩調であるいた君は、僕にとってかけがえのない唯一の理解者であった。君はこれからの中里村を引っぱって行く主導者と見られていた。常に黙って働きせっせと数字と資料を整えて、君は「中里村を展望するのだ」といつも言っていた。十年前の虚無感は現在の君にはあと型もみられなくなっていた。来るべき時代に即応する体制、そんなことを考えていたのであろう。不正や虚偽や虚飾を何よりも嫌った君は権力に対しても、いつも烈しい反抗心を持ちつづけた。君のあの繊細な神経の中にあの烈しい反骨精神が宿っていた。僕はもっと君が生きる予定であった幾年分かを、この背に負って歩みたい。僕らは君が死んだとは思っていない。天下に声を天にしてさけぼう、「君は僕らの魂の中に現に生きている。君冥よ安かれ」と。

(五・一二)

各地区 敬老会開く

中里村恒例の敬老会は、去る五月四日高道山地区をはじめに田沢、貝野、倉俣、土倉、清津峡各地区で開催されました。

この行事は、村内七十才以上の人たちの長寿を祝し、永年社会に尽されたことに感謝しようと、村社会福祉協議会婦人会公民館の共催で開かれ、各地区とも出席した人たちはみんな元気でお互いに健康を喜びあい歓談しながら、婦人会の人たちのこころこめた酒肴や余興に楽しいひとときを過し「また、らいんなもよばれてコウゼノ」と、喜んでいただきました。

【写真は田沢地区敬老会】

—郵便週間—

中学生が一日局員に

第三十二回逓信記念日を祝し去る四月二十日から二十六日まで郵便週間が実施され、全国各地で多彩な行事が催されましたが、村内でも田沢郵便局で二十四日、田沢中、倉俣中の生徒が一日郵便局員に招待され、郵便局の仕事を実際にやってみて、とくに郵便物配達を速くするには郵犬の繋留や、あて名をはっきり書くこと、郵便受箱をつけることなど各家庭の協力が必要であると郵政事業に大いに理解を深めたようです。

【写真は一日局員の生徒たち】

感想文

一日局員から感じた事

倉俣中　鈴木邦俊

ぼく達と速くはなれて住んでいる人達との、一通の手紙のやりとり、その影に局員さん達の苦労の二つ二つがある。夏の暑い日に、ポタポタと、汗を流して届けたのに、住所が違っていたりすることがある。これは本当に私達にとって、つらい事です。と局員さんが心の底から言って、おられる言葉だった。局員の人達の熱心な仕事ぶりを、見ていると本当に重要な、この郵便の仕事に力いっぱいぶつかっている。そんな感じだった。仕事の一部をやって見て実際の所、むずかしかった。自分の手つきと局員さんの手つきをくらべて見て、何時になったらあの位やれるのかしらと思いました。いまやこの郵便の仕組は世界中を飛びまわる程に成長した世界中に手紙などを届ける、それは、一人一人の力から、成り立っている。局長さんが説明して下さるのを聞いているうちにこの郵便の流れの大きさと局員さんの顔つきを見ているうちに尚一層郵便の重要さが体にしみこんでくるようだった。

田沢中　樋口満雄

四月二十四日、私達は小池先生と郵便局へ行った。一日局員、なんとなく楽しいような気がしてならなかった。郵便局についた時、もう倉俣の生徒二人が来ていた。部屋に入ってすぐに感じたことは、まず活気にあふれていたこと。職場はみんなで明るく、楽しくする、これが仕事の能率を上げ事故を防ぐ一つの方法だと思う。この点この職場では理想に近かったと思います。少しまっていると局長さんがいらっしゃって、お話しをして下さった。ぼく達は、スタンプの所から説明を聞きました。なかなかうまくつくことが出来なかったが、少し練習してやっとつけるようになった。次にどのようにしてポストから配達されるか、その順路を説明していただきました。感心したのは、配達員さんの仕事だ。配達区域の家の名前を全部覚えなければならない、どんなに苦労があったか、本当に感謝しなければならない。それに、土倉や倉下にも、手紙がくれば配達しなければならない。冬など本当に大変だと思います。次にポストに入った手紙を分ける所の説明だった。感じたことは分ける所のたなを、もう少し分かりやすくした方が、いいと思います。区域名を、はっきりと、書いておけば仕事の能率が上るとも思った。昼食の後、二階の電話交換室に行って見た。一人でいそがしそうだったが、とてもうまくやっていた。余程練習しなければ、出来ない仕事だと思う。この後、局長さん、配達員のみなさんと、少し話し合いをした。一日局員として招かれ、非常に勉強になった。それに、なんとも思っていなかった、小さな仕事でも実際にやってみると、それぞれ苦労があるのだと、しみじみ感じました。最後に私達は毎日一生懸命に働いている局員さん達に少しでも役立つように郵便受を作ったり、手紙を書く時には、宛名をはっきり書き、父兄の名前を必ず書くなど、日頃から、気をつけて、協力してゆきたいと思います。